

平成 25 年秋の山の実なり調査結果

- ヒグマの秋の主要な食物（4 種）の実なりの状況を調査した結果、ほぼ全道的にミズナラ堅果（ドングリ）が凶作と判断されました。
- そのため、今後、地域によっては市街地や農地へのヒグマの出没が例年より増えるおそれがあることから、特に次のことに留意が必要です。

- ① 人家の近くなど、これまで考えられないような場所にヒグマが出没する可能性がありますので、生ごみ等の放置など、ヒグマを誘引したり定着させたりする原因をつくらないようにしましょう。
- ② 農作物を狙って近づくヒグマが増える可能性がありますので、農地で作業する際は、ヒグマの痕跡（足跡やフン）がないか、十分に確認しましょう。

- 今後の出没増加は、今年同様にミズナラ堅果が凶作だった平成 23 年の秋に、ヒグマの捕獲数及び目撃数が例年より非常に多かったことに基づく推測です。
- 今年はヤマブドウやサルナシなどの実なりが良いため、平成 23 年とは出没状況が異なることも考えられます。
- 道南地方のみに分布する主要食物のブナは概ね並作～豊作であり、この地域では他の地域と出没状況が異なる可能性があります。

【解説】

- 秋（10月～12月）におけるヒグマの市街地や農地への出没の多寡は、その時期の主要な食物の状況と関係があると考えられています。

そこで、道では、秋のヒグマの主要食物のうちの4つ、2種のドングリ（ミズナラ及びブナの堅果）、ヤマブドウ及びサルナシの実なり状況について、関係機関等の協力を得ながら平成17年から調査しています。

【結果】今年ほぼ全道的にミズナラの堅果が凶作～不作傾向にあることが判明(図1)

- 平成23年は本年同様にミズナラ堅果が不作の年でしたが（図2）、その年の秋（10～12月）の北海道全体の捕獲数及び目撃件数は、ともに例年より非常に多くなりました（図3）。（ただし、捕獲数を振興局別にみると、例年と変わらない地域もありました。）
そのため、今年も平成23年と同様に、地域によっては10月から12月にかけての間、市街地や農地でのヒグマの出没が例年より多くなる可能性があります。
- そこで、人身被害の発生を防止するため、道民の皆様にもむけての注意喚起を図ることとしています。

【人身被害防止のために注意すべきポイント】

- ① 人家の近くでは、生ごみ等の放置など、ヒグマを誘引したり定着させたりする原因をつくらないようにする。
- ② 農作物を狙い農地に近づくヒグマが増える可能性があるため、農地に近づく際は、ヒグマの痕跡（足跡やフン）に十分確認する。ヒグマが出没している可能性がある場合は、市役所や役場に通報する。

【補足】

- 堅果類等の実なりには地域差があり、本調査は限られた地点での結果に基づくことに注意が必要です。
- 出没には、調査対象の食物の豊凶以外の要因も影響することに注意が必要です。
- 今年はヤマブドウやサルナシなどのミズナラ以外の主要食物の実なりが平成23年より良いため、当時とは出没状況が異なる可能性があります。
- 道南地方のみに分布する主要食物のブナは並作～豊作であり、この地域では他の地域と出没状況が異なる可能性があります。

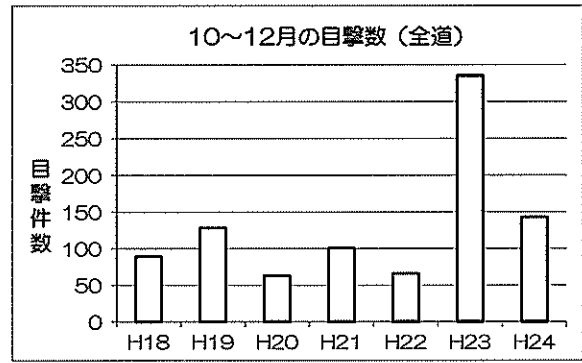
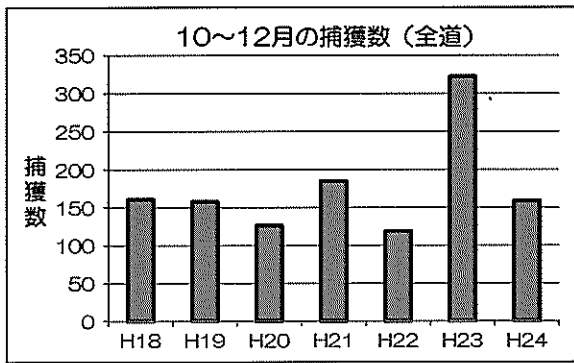
なお、道南では、ミズナラとブナがそろって凶作の年には、10月以降も人里への出没が続くことが確認されています↓。

<http://www.ies.hro.or.jp/center/Book/bear/higuma.pdf>

- 本件は、市街地や農地に出没するヒグマに対する注意喚起を図るためのものです。キノコ採りなどで人間が積極的に山野に入る際の被害防止については、平成25年9月7日から10月31日までとする「平成25年秋のヒグマ注意特別期間」の設定により、注意喚起を図っているところです。

【豊凶状況調査協力機関】

- ① 各大学附属研究林・演習林（北海道大学、東京大学、京都大学、九州大学）
- ② （地独）北海道立総合研究機構（林業試験場、環境科学研究センター）
- ③ NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
- ④ NPO法人 EnVision 環境保全事務所



振興局別

※北海道警察調べ

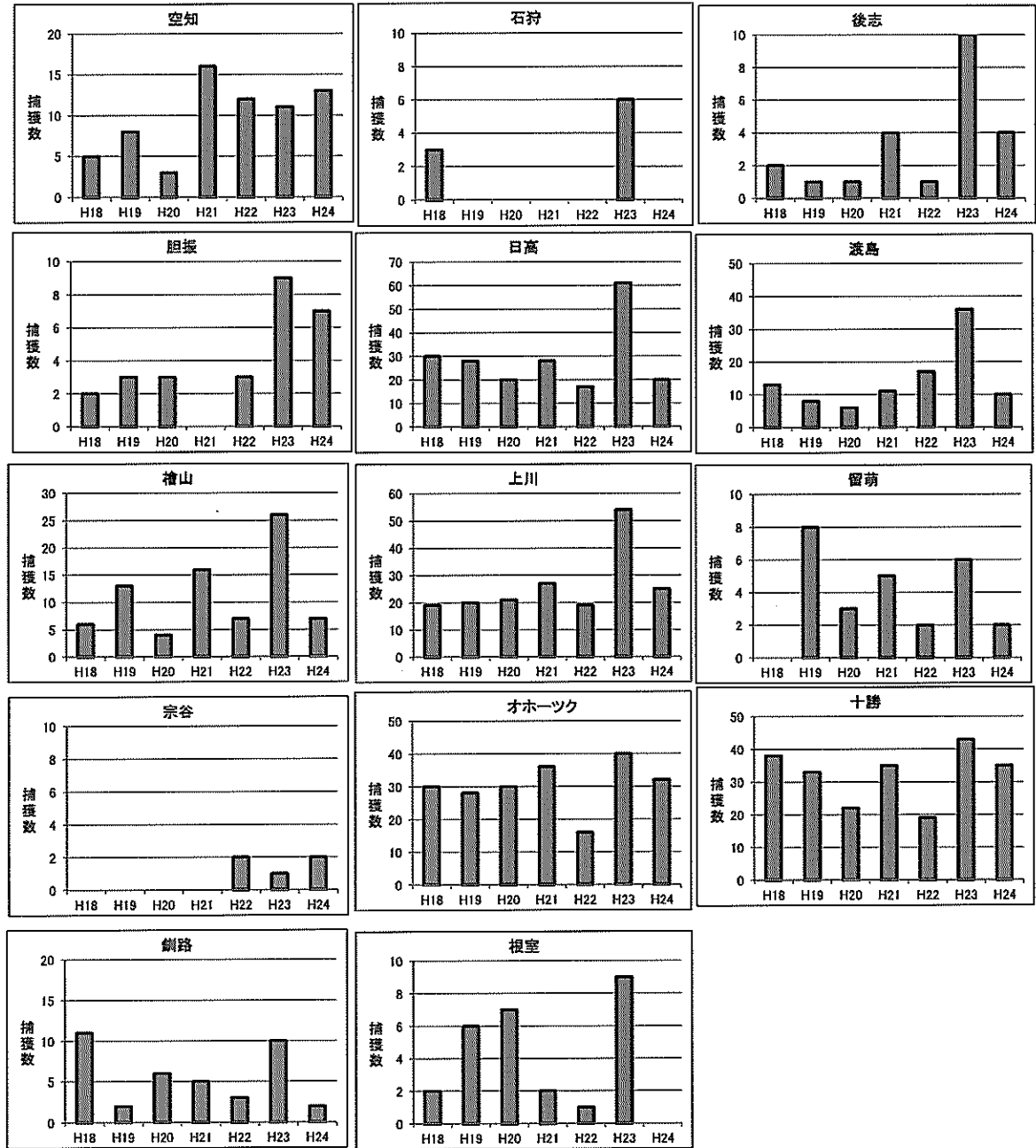


図3. 平成18~25年の秋(10~12月)のヒグマ捕獲数及び目撃件数